長門の風

平成5年12月
第18号
発行 長門町役場
企業課開発係
☎0268-68-3111㈹
F0268-68-4011

題字
北澤貞利長門町長

## 町営ブランシュたかやまスキー場

# レストハウスがお目見え

## クワッドリフト近く

### レストラン、無料休憩室

長門町営ブランシュたかやまスキー場にレストハウス「バウム」が十二月七日にオープンしました。

第一クワッドリフト乗り場の近く、第二駐車場下に新設、お客さんのご来店をお待ちしています。

昨年までは第二駐車場は土、日しか駐車できなかったのが、今年は平日も使うことができ、クワッドリフトに直接行くことができます。一段と便利になりました。

レストハウスは地上一階、地下一階、自然に邪魔にならない木造建てで、とんがり屋根が目印です。面積は七百三㎡。一階はレストラン（テナントが四店舗入ります。めん類、カレーなどお好みのお食事が楽しめます。）券売場、地下にはレンタルスキー、無料休憩室、パトロール室があります。

たかやまスキー場は標高千九百メートル、パウダースノーのゲレンデはスキーの技術力をより一層高めてくれます。

また、晴れた日には富士山が見え、アルプスの山並みが全部自分のものです。

スキーもさることながら360度の展望を眺めるのも素晴らしいと思いますよ。

とんがり屋根が目印のレストハウス

地下はレンタルスキー、パトロール室も

## 障害者にやさしいスキー場

### 来年2月18日―20日開催

# 「パラリンピック」国内大会

日本身体障害者スポーツ協会など身障者スポーツ三団体は障害者の国内大会「ジャパンパラリンピック冬季大会」を新設することを決めました。

その第一回大会を来年二月十八日から二十日まで長門町営スキー場ブランシュたかやまで開きます。

この大会は長野五輪直後の九八年三月に開くパラリンピック長野大会に向け、選手の育成、技術向上を図る目的で開くもので、主催は日本身障者スポーツ協会、日本身障者スキー協会、日本チェアスキー協会です。

たかやまスキー場のパノラマコースを使い、スキーのアルペン競技（回転、大回転）とノルディック競技を行います。選手は約百人、役員を含め三百人程度の参加が予定されています。

日本身障者スポーツ協会では長野大会の前年まで、毎年長門町で開く予定です。

町は関係団体へ協力の要請、身障者用トイレなど施設の整備を進めるなど準備に大忙しです。

ふれあいの郷から美し松別荘、蓼科山を望む

## 長門再発見!!

# 黒耀石縄文鉱山のまち

黒耀石はマグマが産み出した天然のクリスタル。遠く3万年もの昔よりナイフや石槍、そして1万2千年前からは弓矢の先につけるヤジリの原料として使われてきました。

長門はこの天然ガラスの一大原産地の一つ。旧石器時代（～一万二千年前）から縄文時代（一万二千年～二千三百年）にかけて、この黒耀石を求め全国各地から人々の集うところでした。黒耀石の山は、長門の南端、鷹山地籍の星糞峠にあります。ちなみに星糞というのは、遠く宇宙の果てから降り積もったキラキラ光る黒耀石のこと。地元の人たちのつけた呼び名です。

山ほどの黒耀石は、最初、鷹山集落の中央を流れる川底で採集されました。現在のおいしい高原野菜の畑の下からは、鷹山川で拾った黒耀石を加工したたくさんの石の道具や加工の時に打ち剥がされた黒耀石の割りくずが埋もれています。そして、時がたち、縄文時代の人たちは川筋から黒耀石の源、星糞峠に登りつめて黒耀石の縄文鉱山を開拓します。

川底から山の上へ、何故、わざわざ峠まで登って直接掘り出すようになったのでしょうか。理由はいくつか考えられています。その一つには、縄文時代になって、気候が暖かくなり豊かな森がつくられます。この森によって、山崩れが少なくなり、星糞峠から鷹山川に崩れ落ちる黒耀石の量が少なくなってきたため、直接採掘するようになったという考え方です。そして、もう一つは、大きな労力をかけても黒耀石を掘り出すという事業が縄文時代の人たちにとって重要な意味を持っていたという考え方があります。これは現在のお祭りと共通する考え方ですが、多少困難なことでもみんなで協力して一つの大事業を成し遂げる、それによって、地域の人たちの仲間意識や理解が生まれてきます。また、それは当時の社会が組織的な事業を成し遂げることのできる秩序のある時代であったことを物語っています。

さて、そんな豊かな想像も、真相は静かな星糞峠の森の中に眠っています。これからどんなことが新たな事実として発見されていくのでしょうか。縄文鉱山の規模は人一人の一生涯をかけても掘りつくせないほどの規模と情報量とを持っています。100年、200年かけての発見、そんな発見のひとつひとつから現在の長門を見つめ直していくのもこれからの大きな楽しみでもあります。まちでは、この鷹山遺跡群そして星糞峠の野外史跡公園を一つの核とした活用計画を考えています。皆さんからのアイディアを募集しておりますので、ぜひ、ご意見ご要望をお寄せ下さい。

教育委員会 担当
大竹、勝見

黒耀石を掘った跡。周辺から黒耀石がザクザク

# 肉厚のシイタケいかが

## 別荘内で見事、栽培

### 森林組合があっせん

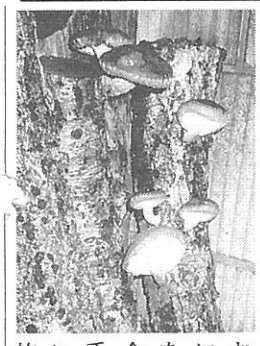
### 来春は同好会を作りたい

遠藤　勇

今年の秋は例年になく茸の当たり年で茸狩りを楽しまれた方も多いと思います。我が家にも茸のビッグニュースがありました。それは、昨年仕込んだ百二十本の椎茸が一斉に芽を吹き出し収穫に大忙しだった事です。

それも『どんこ』という肉厚で大型の椎茸で一般にはなかなか手に入りにくい品種なので近所におすそ分けして感激され、それにも増して反響が大きかったのは、菌を植えこんだ原木を数人の友人に贈呈したのですが連日のように電話で興奮ぎみに報告が入りました。こんなに喜ばれるならば、来年の春は椎茸栽培同好会を作り、皆で山に集まりいい汗を流そうと計画しています。こんな事から長門の風の愛読者にも椎茸栽培の楽しみ方を紹介しようと思います。興味のある方は一緒に始めましょう。

先ず椎茸栽培の元になる原木ですが広葉樹で特に『なら類』が最も良く、伐採は晩秋に、吸い上げた水が落ちた頃に切ったものが最上です。長門町には、なら類が豊富で依田窪森林組合が年に一度愛好者に斡旋しており、容易に手に入ります。原木は直径六～十二ｃｍで長さは一ｍです。次に椎茸菌ですが栽培地の条件に合わせた品種が数種類あります。即ち高地で寒冷地に適した品種と平地で温暖な地域に適した品種です。私が選んだ椎茸菌は『どんこ』で東京で栽培していますが見事に成功しています。どこで栽培するか決めておき、その気候に適した椎茸菌を依田窪森林組合に相談して入手してください。椎茸菌は射的の鉄砲の玉のような直径八ミリｍの木駒に菌が凝縮されて千個で一箱となり販売されます。直径六ｃｍの原木なら二十個位、九ｃｍで三十個、十二ｃｍで四十個位使用を目安で何本作るか計算すると良いでしょう。原木も菌も依田窪森林組合で斡旋してくれますが申し込みは毎年2月末までです。



こんな立派なシイタケが採れました

原木は、小が百九十円、大は二百円で五本から購入できますが、椎茸菌は千駒で一箱二千四百円です。四十本前後に相当しますので、多ければ数人で分けると良いでしょう。希望者は各自、直接依田窪森林組合に申し込みますと、四月に美し松、学者村の管理事務所に届けてくれます。五月の連休に菌の植え込み作業をやるのがいいでしょう。菌の植え込みは、原木の穴あけ作業から始めます。穴の直径は菌の駒の直径と合わせますが規格化されており椎茸専用のビット（ドリル）が八百円で購入できます。穴の深さはツバ付きですから自動的に決まります。これを長手方向十ｃｍ間隔に一列にあけます。木の直径が六ｃｍなら双方向2列、直径九ｃｍなら三列、直径十二ｃｍなら四列が多めながら安全な数量です。菌が木全体に廻るよう相対する穴は五ｃｍずらし千鳥にするのが効果的です。穴があけば菌をハンマーで打ち込んで作業は終了です。

栽培方法については、専門家の指導書を読むとやたら手のかかる手順が書かれていますが急所は①直射日光が当たらず②雨が当たる所③できれば庭木の近くで水遣りのついでに水をかけられればなお結構で、それほど気を使う必要はありません。収穫は年二回で、一年後の春にポチポチ出始め、秋には一斉に吹き出します。芽の吹き出しは水の当たり具合に比例するので、春1番が吹く頃又秋は涼風が吹く頃になったら、二日程水に漬けてやれば確実に発芽します。収穫は三年目がピークで徐々に少なくなり五年が限界です。菌を植えた時はこん棒のように固い木ですが徐々に菌に侵され最後はフカフカでボロボロになって終わります。

椎茸菌の種類が平地温暖用なら山で年越しせず、すぐに栽培する場所に移動して下さい。時間がなくて菌の植え込み作業ができない人には、菌を植え込んだ完成品を1本四百円で斡旋してくれます。今回は椎茸について紹介しましたが、この他になめこ菌や、くりたけ菌も森林組合に用意されていますので興味のある方は挑戦してください。

**依田窪森林組合を紹介します。**

住所：長門町古町2457－1
電話：0268－68－2172
FAX：0268－68－2056
担当：豊田さん、小林さん

---

# 「山荘日記」より

第三期　城　敬子

十一月五日

地元の今井さんが我家の裏山を見て「松茸が出そうな所だ」と一言。「長窪城趾に行こう」と急に夫が言いだす。松茸山を見学するのだと言う。長窪城は中世の小さな山城で武田信玄が北信濃を攻めるために拠点としたところ。城趾の東北斜面にロープが張られ「松茸山、立入り禁止」と書いてあるのを思い出したらしい。

「一本うん千円もする学者村産松茸が我裏山に生えたら！」と夢には緑青がふいている。「緑青に秘密があるらしい」と夫が言う。ロープの外にあが大きくふくらんだ。早速出かけ松茸山を入念に見る。下草が刈られ土の上には松葉のみ。赤松の根本には緑青をビニール袋にちょっぴり戴く。夫は熊手を買ってきて裏山でごそごそしていた。赤松の根本に緑青を蒔いてきたとか。来年の秋が楽しみだ。

十二月二日

チロル地方の楽器ハックブレットを手に入れた。寒いけどベランダで弾きぞめをする。きりりとした空気にその音色は風にのってコロコロと転がる。興に乗って弾いていると訪ね人。白い家の斉藤さん。「お隣の梅村裕子さんが練習していらっしゃるのかと思って登って参りましたの」と手にハーブティのおみやげ。「まあ！大ピアニストと間違って下さって光栄ですわ！さあ、どうぞ、どうぞお上がりになってお茶でもいかが」冷たい冬の風も時には嬉しい事をしてくれるものだ……と思いながら、お茶を入れた。風にのって

---

# 旅日記

## “伊豆のひとり旅”②

依田健一

三人で旧道より新道へと出ると、道路工事の為河津までバスはなく、砂ぼこりの道を一時間半も歩くこととなる。河津のバス停で露天風呂のある民宿を知り予定変更、七滝温泉〝しゃくなげ荘〟に宿をとる。一泊二食付きで千五百円、ユースでの食事とは大分おかずの数、量とも多く、残った飯で明日の昼のおにぎりをビニール袋を使い作った。

三月八日、朝七時に起き、川沿いの道を歩き露天風呂に向かうが、風呂があったのは洞窟の中。昔、金を採掘していた穴を利用したものだった。宿に戻り朝食を済ませ再びおにぎりを一つ作りそっとリュックの中に入れ出発。今日のコースは、高根山、寝姿山。出発点の稲梓駅はとても小さな駅。近くの雑貨屋で道を尋ねるが、土地の人もあまり利用しない道らしく、良くわからずスタートから迷い子。手持ちの地図と大分異なり四苦八苦の山道歩きとなる。山配を感じる。旧下田街道に出、寝姿山の入口を捜すが見つからず、そのまま街道を下り再び踊り子コース。

旅に出ると、他の人に対しとても素直になれる為、気が合うとやたらと話したくなるが、逆に気の合わない人とは全く話さず、山の中でのひとり言が恋しくなる。今晩はそんな気分だ。

三月九日、今日は最終日、石廊崎から仲木までは自動車道で歩きずらかったが、景色がとても良く、実に良き友が同行してくれた。車が近寄って来ると私の脇で止まり、カメラを向ければポーズをとり、チョコレートをやっても私が食べるまで口にしない。実はとても賢い犬である。

小さな漁港仲木よりハイキングコースに入る。二十分程歩くと左手に海が現われ、視界が広がる。ここはガイドブック通りである。山道が下りになり入間の漁村に入る。四十年程前に大火があり、それ以来屋根はカワラ、垣根はセメントかブロックと決められたとのこと。セメントとカワラが入間の素朴な風景を造り出している。

下田の駅でキップを買おうとポケットに手を入れ、いくら数えても東京までの料金に足らず、しかたなく横浜まで買い下車。友人の所に立ち寄り金を借り、夜遅く下宿へ辿り着く。

学生時代最後の旅
ひとつ変わった旅にしよう
歩きに歩き続けよう
帰る金がなくなった
線路のうえを歩くのか
腹はへったし、金はなし

昭和四十八年三月九日

頂でコケの中に立つお地蔵さんを前に座り込み、おにぎりにかぶりつく。下草はもう春、タンポポが愛らしい。山から里へ向うにつれゴミが目立ち、人の気

---

## 編集後記

▽十一月、長門町長選挙が十二年ぶりに行われ北沢貞利現町長が三選を果たしました。北沢町長は長門町の豊かな自然を生かしたリゾート開発に熱心に取り組んでおり、皆さんが楽しく、親しめる別荘づくりに引き続いて力を入れると思います。

▽九月十二日付け、読売新聞の一面トップ記事で、美し松別荘近くの鷹山地区の山中で日本で最大規模の黒曜石遺跡が確認され全国へ報道、町は沸き返りました。

▽十一月に、この別荘だよりを作っている一人、役場の企業課係長藤森さんが結婚しました。新婦は別荘がとりもつ縁で東京の女性です。おめでとう！若い人にもっともっと愛される別荘であってほしと思います。

（井出正義）